

# 地元の商工業を かわいがってくださーい

## 商工業を支えろ

「新しく会社を立ち上げる」「店を開く」「経営を維持する」と言っても、簡単なことではないでしょう。

そんな人を支援する所があることを、皆さんはご存知ですか。商工業の振興は、市の発展に欠かせないもの。

記念すべき第1回目の特集は、「商工業の発展」に

焦点を当て、商工会議所を紹介します。



熱く語る平井治商工会議所会頭

### 商工会議所って どういう所？

商工会議所の会頭である平井治さんに、いろいろお話を伺ってみました。

商工会議所の役割は、「商工会議所法に定められた目的があり、商工業の総合的な改善・発展を図る。異業種交流により事業所間のコラボレーション（異分野の人や団体が協力して制作すること）を推

進し、相互事業の展開を拡大する。要するに事業の発展を図っていくこと。それと同時に地域貢献と福祉の増進に役立つこと」とのこと。商工会議所は、基本的に会員の組織で、会員は市内で1千269事業所（平成26年11月現在）です。

### 支援方法は？

会員に対して、各企業の情報の提供や国・府・市からの補助金の情報提供などを通じて経営相談のつて健全な経営をしてもらう。融資の問題も含めて、いろいろな相談にのるのが日常業務です。そのほか、研修業務や平成26年度は4回連続講座の「創業塾」を市の創業支援事業計画と連携して開催し、創業希望者51人の参加がありました。

この創業塾ですが、特定創業支援事業というのがあり、創業塾の受講者が市に申請をし、証明書を発行してもらう

と、例えば株式会社の登録免許税が半額になる、1千万円の融資枠が1千500万円になるなど、特典を受けることができるということでも非常に好評でした。

商工会議所では、そういった会員も、非会員でも相談を受け付けています。

### 商工業の状態

商工業を発展させるには、「現状がどうなっているのか」を知っておくことが重要になります。では、その点について、どのような状況と言えるのでしょうか？

商業界はなかなか発展しているとは言えません。長い間デフレスパイラル（物価下落と利益減少が繰り返される深刻な状況のこと）が続いていて、販売価格が下がっていき、苦しい状態であるのは確かです。

それに加え大規模店が出店してきており、地元で買い物していたのが大規模店に行くと一週間分を買いだめをするなど、地元での購買意欲が低下しています。

本市の場合、大手の会社があって、その下に下請け企業がありました。そこでは従業員が働いていたわけですが、大手企業の海外進出などで従業員がどんどん減っていきました。市内の労働人口が減るということは、夕方から一杯飲みに行っていた人たちが存在しなくなる。企業の衰退や移転により、見えない人口がたくさん減っていつているわけです。

商店街は、売るだけでなく、ご年配の人たちの交流の場の一つになっていて、おじいさんおばあさんが元気に話をするなど、コミュニティの場としての役割を担っています。

そういう状況ですので、14の商店街が情報を共有し、できれば共同でイベントをやろうではないかということで、地域の皆さんに喜んでいただけるようなことを進めようとしています。

工業についても、今までは大手の会社があって、その中請け・下請け会社が乾電池や部品などを製作していました。そういった会社の付き合いの中で、中小企業は頑張ってきました。ところがそれが

なくなってきたため、みずから何か新しい事業を始めないといけないなど、非常に迷っておられます。

最近では大手の会社もグローバル化して海外に進出している。そういった狭間で、中小企業は今、非常につらいことになっており、悠然と事業をしている会員はおられません。皆さん大変な苦勞をなさっているのが現状です。

### 商工業を活性化させるには

こういった現状から、活性化させるためにどういった対策が行われているのですか？

現在いろいろな国の補助金が出ています。商工会議所としては、そういう情報を商・工に伝え、意欲のあるところにはどんどんやっていただく。こういった体制を作っていくには、市とパイプをつなぎ、お互いが情報を共有しながら進めていく。例えば、国のにぎわい補助金、まちづくり補助金、これらを市に推薦状を書いてもらって国に出す。そういった大きな支援策が打た



守口門真商工会館

れてきています。しかし、補助金などを知っている人も少ないうえ、知っていても資料作りが大変なので、制度を活用するための資料作成支援など、足腰のしっかりした企業として立ち直ってもらえるような協力をしていくのが役目であると考えています。また、小さな会社でも特殊な技術を持っている会社はたくさんあるので、そういうところをPR（宣伝）するために展示会を開催しており、今年も商・工併せて41社が出展しました。これには、市から出展補助金として協力もいただいで

います。

このように、市と商工会議所でお互い連絡を取り合い、情報を速やかに会員や市民の皆さんに伝達することが大切であり、それに反応があれば素早く対応する。その対応も、商工会議所の職員は電話で会話をしているのではなく、会社などに出向いて顔を合わせて話をするのが大事である、ということを常々言っています。

### 市民の皆さんへ

最後に、市民の皆さんへ何か一言お伝えすることは？

市民の皆さんも、事業者・商店をもう一度見直してほしい。50年以上市内で営業をしている企業もたくさんある。そういうところを見直して、見守り育てていただきたいと思います。



(平成26年11月4日取材)

住・商・工の皆さんが互いを認め合いながら、街づくりをしていく必要がある。そのためには、商業でいうと「お買い物は、できる限り地元でしてください」ということでもあります。「地元の商店街をかわいがってください」が願いです。工業に関しては、市の工業はこれだけ良いものがあるということ、市民の皆さんに訴えることができる場所が必要。こういったものがあるというPRをもっとやっていく必要があると思います。中小企業の存続発展、商店街の活性化を求めてまい進みますので、よろしくお願ひします。

### 平井 治氏

平成19年11月より、守口門真商工会議所副会頭  
同 25年11月より、同会議所会頭

同 21年 6月より、守口市商業連盟理事長として現在に至る





続いて、時国和親 地域振興課長に話を聞きました。

## 「守口」で育つ

私が市民となったのは、昭和42年（1967年）小学校6年生でした。

当時は、大枝公園の建設が始まった頃で、「自転車を探検だ！」と駆け回っていました。

教室の窓から、南西に大阪城、東から南には生駒の山並みが見え、目の前には田んぼやハス畑が広がり、旧松下乾電池の工場や町工場が建ち始め、働く人の住宅が建設される...

今思えば、市の人口が増加し、のどかな時代から産業の発展に伴い市街地化への最中だったのでしょう。景色の変化が子ども心に楽しかったことを覚えています。

20歳くらいまでは、松下・三洋の企業城下町として下請けの中小・零細企業の工場が増えたことで、定住・通勤人口の増加に伴い、商店街や一般店舗も活況を呈し、町に活気があふれていました。途中、オイルショックやドルショックもありましたが、



大企業とそれを支える下請けの努力で持ち直し、バブル経済へとつながるわけですが、市の市街地化は一層進み、マンションや大型店舗の建ち並びが都市へと変貌しました。

## 産業発展の裏に

こうした産業の発展は市税収入を潤し、市民の皆さんに福祉の充実という恩恵をもたらし、市は交通至便で住みよい街となりました。

一方、町工場が建ち、人口増に伴う住居建設などの引き替えに農地が減り、かつてのどかさはありませんでした。しかし、バブル経済の崩壊後、大企業の海外流出とともに日本経済は空洞化が進みます。

企業城下町であった守口市も、商店街のシャッターが次々と下ろされる状況になっています。

空き工場や商店の跡地に戸

建て住宅が建ち、現在は住・工・商・農混在の街となっており、共生の街づくりが今後の重要な課題となっています。

## 届け！

## 「地域貢献」の思い

それでも頑張る企業もあります。

今までの下請けから特殊な技術をブランドとして内外へ発信、新たな製品に挑戦！商業分野では、買い物しやすく皆さんに親しまれる商店街を目指し、さまざまなイベントを開催するなどの工夫がされています。

農業分野でも、丹精込めて作った地元産の安心・安全な農作物を朝市で販売したり、学校給食の食材として提供することによる地産地消の推進などのほか、災害が起こったときのために、農地を防災協力農地として登録していただいています。

こういった皆さんの共通の思い、それは「地域貢献」。各分野で、市民まつりや地域イベントへの参加を通じて、市民の皆さんに「秘めたる思



い」を知っていただくことで、地域に絆きずなが生まれ、潤いのある生活を送っていただけることを願い努力されています。

## 身近にある

## 「市の伝統」

私は、地場産業の発展無くして市の発展はないだろうと思えます。

市民の皆さんが、活気のある守口に住み続けるには、こうした普段なかなか目に止まらないことや市内の産業を知っていただくことが重要だとも考えています。

広報誌の刷新を好機と捉え、市が産業を発信することで、皆さんの地場産業への理解の一助になることを願っています。